

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25257014

研究課題名 (和文) 東アジアの広義のホームレス支援に基づく包摂型都市生成と支援の地理学の構築

研究課題名 (英文) Advocating New Geographies of Homeless Assistance and Pragmatic Regeneration Efforts of the Inclusive City in East Asia

研究代表者

水内 俊雄 (MIZUUCHI, Toshio)

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授

研究者番号：60181880

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 31,800,000 円

研究成果の概要 (和文) : 3つの研究領域として、(1) 東アジア諸地域のホームレス支援の政策的展開と支援の深化、(2) 居住福祉のセーフティネットの再編強化を基礎にした都市の再生、(3) 最後のセーフティネットの空間を抱えざるを得ないグローバル都市をめぐる都市論の唱道、という3点の達成を図った。(1) に関しては、東アジアのホームレス支援を、政策実現や定例会議化を含め強いネットワークを築いたこと。(2) に関しては、NGOによる中間ハウジングを中心とする居住支援が、脆弱なインナーシティの再生につながる事例を社会に見え化させたこと。(3) に関しては、欧州都市も視野に入れ、「包容力ある都市論」という形で理論的に提案したことにある。

研究成果の概要 (英文) : For three research areas of (1) Homeless Policy in East Asia and the Intensification of Assistance Services; (2) Urban Regeneration Through Reconstructing and Strengthening Housing Welfare; (3) Advocating New Urban Theories on Indispensable Spaces of Assistance in Global Cities, we have accomplished the following: (1) The creation of a strong network of actors engaged in homeless assistance in East Asia, including policy feedback and regular meetings. The actors include policy makers, academics and NGO members; (2) The validation of disadvantaged inner city regeneration projects based on housing welfare organized around NGO-run transitory housing. These projects are improving old urban environments while tackling social issues; (3) Putting forth the theory of "the capacious city" through examination of East Asian and European cities. Based on the contradiction between welfare-oriented and free market perspectives, we argue for the importance of strong social safety nets in inner city.

研究分野：人文地理学

キーワード：インナーシティ ホームレス 居住福祉 支援の地理学 東アジア

科学研究費補助金研究成果報告書

平成29年5月25日現在

1. 研究開始当初の背景

(1) 2000年から続いてきた東アジアのホームレス支援の調査研究での一つの画期は、2007-2009年度科研「排除から包摂をめざしたホームレスの中間居住施設と地域定着事業の支援体系構築」の構想時であった。NGO研究として、ホームレス支援のNGOの果たす役割の解明と、同時に地域にもたらす影響が、都市再成につながってきたことの発見にあった。中間居住施設＝ハウジングを「卒業」し、自助、互助で地域でのひとり暮らしの支援＝アフターケア支援と、中間ハウジングで暮らし続けざるを得ない層への継続支援が、ある程度の密度をもって、特定の地域でセットとして動き始めたことがわかってきた。見方を変えると、インナーシティの遊休住宅資源を再活用した、都市の再成の取り組みとして位置づける回路の発見となったのである。

(2) こうしたインナーシティに胎動し始めた動きを、再度東アジアでの調査対象地域に当てはめようとした科研が、「東アジアのホームレス支援が創り出すもうひとつのインナーシティ再生の試み」2010-2012年度となった。この再成の成立には、使命を有したNGOと、その活動を支える公的扶助や補助がないと回らないという前提がある。しかしこうしたシステムの根付きが必要であるため、この科研では、特に台北や香港において、NGOへの活動のバックアップや公開・公表に力を注いだ。最大の成果は、関わるNGOや研究者の集まりとして定期的な交流と、それによる活動の点検や新たな仕組みの開発などを話し合うネットワークを築いたことであった。2011年3月に最初に台北で開催した、東アジア包摂型都市ネットワーク会議、略してEA-ICNである。これが本研究開始当時の到達点であった。

2. 研究の目的

(1) これを受けて2013年度より始めた本研究は、日本、韓国、香港、台湾を主たる対象とし、路上生活者のみにとどまらない広義のホームレス生活困窮者の人々の受け皿となる、狭小低家賃住宅の集中する社会的不利地域における支援の社会的、地理的蓄積を先進事例とした。包摂型のインナーシティの自立的再生を推進することを最大の目的として、政策モデルの整理と、相互比較を通じた施策の錬磨をめざした。

(2) 一つは日韓を通じて最もよく見られる東アジアの新たな「居住福祉実践モデル」の模索である。このモデルは、両国において、ホームレスや露宿人に関する法律と公的扶助制度の二重のセーフティネットの枠組みを前提にホームレス支援が展開してきた。さらに民間セクターとのパートナーシップによる「社会住宅政策」を、既成市

街地の空き家等を活用した形で積極的に進めてきた。この意義の唱道が第一の目的である。

(3) 台湾においては、ホームレス支援策の対象は、極めて限定的で、制限的であり、「普遍主義」的というよりは、「選別主義」的色合いが強い。その中での先進自治体台北市における補完的貧困施策の現状と展開過程を分析することが目的となった。

(4) 開放的経済市場を有して福祉支持のスタンスの弱いシンガポールと香港は、先進地域ではトップランクの格差問題を抱えており、活発的な支援団体活動が存在しているに関わらず、被支援者の自立生活への移行がますます困難となり、大きな課題となっている。こうした現実の中では、支援の具体的内容がいかに関係してきたか、それともこれからいかに変容していくかをモニタリングすることが、本研究の目的となった。

(5) 同時にインナーシティ再成の社会企業的な発展に関し、研究者とNPOとの強い協働体制のもと推進する、アクションリサーチ型でありかつ政策生成指向の研究を推進することとした。これはEA-ICN会議の継続的開催によって、当面図るものとなった。

(6) 理論的展開において特に都市論との交差の必要性を意識し、本研究開始当時は、支援の地理学という名称で進めることになったが、次章で述べる通り、開始と同時に新しい研究枠組みを摂取でき、支援の地理学を敷衍する理論的枠組みの変更を加えることになった。

3. 研究の方法

(1) さてこの理論的枠組みの再構築にあたって、問題が3点あった。実践的色合いを濃く有する研究チームにおいて、理論的錬磨とは何を意味するのか？社会的な認知や合意形成を図れるような都市構想的理論が、支援の地理学というチームで達成できるのかという不安があったこと。第2点は、西成や台北の萬華で典型的に適用される包摂都市のあり方について、福祉開発的色合いはありつつも、高齢化社会の持続可能性を公的資金に依存しながら保持している、この強依存に対する閉塞感があったこと。第3点は、ホームレス状況のとらえ方であり、ジェントリフィケーションの犠牲になる弱者を照射する批判都市論を、日本の都市現実に当てはめることに対する違和感が生じていたことであった。ここでは、主にこの理論的展開をどのように進めたかを述べておきたい。

(2) まずは日本の都市現実に当てはめたジェントリフィケーション分析を進めることと、いったん

東アジアでの経験を相対化するために、強い連帯セクターを持つ欧州都市を参考にし、このコンテキストでよくみられる市民の間の自発的なケアや互助が東アジアの都市コンテキストでどのような可能性を持っているかを検討することに注力した。2013 年度より主にベルギーとイギリスの学者との交流を進めながら、都市問題に対する知識を共有する場を設けた。特に、2016 年 10 月 22 日～24 日にかけて、開催した「復元力(レジリエンス)のある都市をめざして—アジアと欧州を架橋する先端的都市論」と題した国際シンポジウムの中で、「ローカルな多様性とレジリエンス 欧州・東アジア都市の格闘」をテーマにしたメインセッションを設け、ブリュッセル、ロンドン、上海、大阪との間の意見交換を進めた。

4. 研究成果

(1) 日本のジェントリフィケーション研究の深化として、2015 年に『都市大阪の磁場』を刊行し、2016 年には、中間レポートとしての『レジリエントな都市の翻訳作業』、2017 年の『都市の包容力』を刊行したことを、成果として挙げておきたい。

2015 年の編著は、生活困窮層が集住する地域だけでなく、より広くインナーシティ、時にはアウターシティも含めてみた場合、大阪の独特の土地市場の働きもあり、インナーシティの再生にジェントリフィケーションが後押しする新状況が出現していることが、ある程度実証できた。

(2) 次に上述の第2点の閉塞感の打破のため、欧米の都市の荒々しい現実と、社会モビリティが変容する中、穏健ともいえる包摂型東アジア都市論の再定位がどうしても必要となってきた。この再定位で出会ったアプローチが、批判都市論を乗り越える必要性を説いた Deverteuil et al(2009)の研究であった。翻訳を直ちに行い、タイムリーにもその主導者の Deverteuil(2015)から、理論的パースペクティブと実証の兼ね備えた新著に接することになった。手厚いサービスを行っている支援団体(NGO)や社会的不動産業者を担い手とした、地域の社会的・空間的レジリエンスのプロセスに目を向け、本研究チームの指向に見事に適合していた。

とりわけ着目された概念は、サービスハブであり、キータームとして導入されたレジリエンスであった。グローバル経済から地域に強まる圧力や新たな貧困問題に対し、低所得者やホームレスを含む様々なマイノリティ向けの支援を続けている支援団体の集積であるサービスハブ=空間的なレジリエンスが、そしてこうした支援が、ジェントリフィケーションの脅威があっても、拠点とする地域で根強く維持され続けている=社会的なレジリエンスが見られるという指摘である。

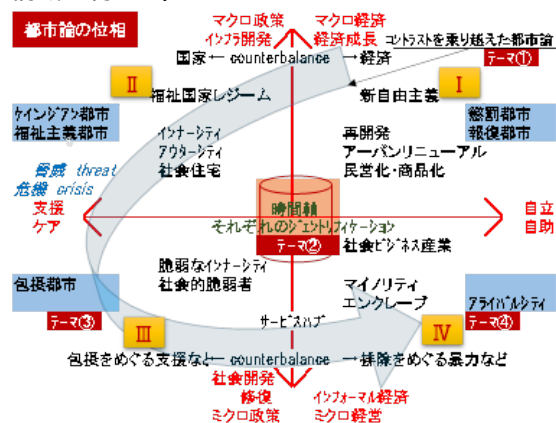
この指摘は、ロンドン、ロサンゼルス、シドニーでの実証に基づいており、サービスハブの機能自体が、東アジアの調査で対象とし続けてきた中間ハウジングや相談拠点に相応し、コンテキストは大きく異なるものの、分析ツールとしては極めて応用性の効くものとなったのである。閉塞感の打破には大いに貢献することになった。

(3) 新たな追究課題は、都市論的には次のような展開になると予想される。東アジア発信の社会包摂都市論が空間的に築いた最後の安全網空間の存在が、グローバル都市には不可欠であること。そうした空間を寛容に受け止める包容力ある都市論の構築を、暴力やテロ事件とも向き合いつつ欧州のより現実的で政策指向の都市社会地理学の実践に、理論的、実質的交流を通じて実現することにかかってくると思われる。

そうした事態とも向き合いつつ、最後の、もうひとつの安全網を有する地域における、レジリエントな復元力ある地域の社会的認知と、政策的実現可能性を高める社会実験を行う、政策指向の国際協働プログラムを実践することになる。

よりグローバルな都市論の文脈からは、現在共通するインナーシティにおける社会的モビリティの停滞、固着化問題に対する意識である。そもそも移住者のためのゲートウェイや生活困難者のための一時的な支援拠点としての空間福祉的な役割を果たしていた、こうしたインナーシティは近年この機能が低下しており、これらの地域に新たな課題が生じてきた。こういう空間を最後のセーフティネットとして見直すか、と同時に、一時的な互助・自助拠点としてサポートしていくか、政策上でも緊急な課題であるといえる。

(4) 『都市の包容力』では十分には転回できていないが、下図のようなインナーシティの実状と維持・発展のメカニズムの整理を、以下の4象限構成で行った。



1象限: マクロレベルでの(市場経済における)自助の仕組み。個人の経済的自由を主張する新自由主義が最も代表的なイデオロギーであり、資本(の循環)が都市空間を編成させる勢いを指す。商業中心地区(CBD)、金融センター、民営化、財産としての民間住宅、典型的なジェントリフィケーションのプロセスを含む。

象限: マクロレベルでの互助の仕組み。再分配の必要性を主張する社会福祉的思想が最も代表的である。都市空間においては、公的投資、インフラストラクチャーなどを含め、公営住宅や集合消費施設の建造環境をさす。

象限: ミクロレベルでの互助の仕組み。ケアや支援の必要性を主張するボランティアセクターの活動が中心であり、地域にある支援拠点などを指す。NPO が自らで経営する施設、(社会)住宅などを含め、剰余人口に対する強い包摂性を有している場所でもある。

象限:都市の中にある強い自助性を持った場所を指す。多くの場合でインナーシティにあるセミフォーマルな空間でもあり、人が自らの力で自分の生活基準を改善していく何等かの生活プラットフォームとなっている。そもそも流動性が高い場所でもあり、移民エンクレーブや風俗街、低廉な民間賃貸住宅集中地区など、行政によって黙認されていることが多い。自助ネットワークは、エスニックコミュニティから暴力団体まで、広い幅を持つ。いわゆるグレーゾーンなどである。

(5) 我々の研究ターゲットは、象限でのより相応しい包容力ある支援やケアの抽出と、同時に象限の、排除されるべき逸法、脱法の搾取ビジネスでありながら、場合によっては支援やケアのサービス機能もある局面を洗い出すこと。地理的に、よい意味でも悪い意味でも、特定の空間が安全網となっている実態把握を行うことが、研究に独自の味を出すことになる。寛容な都市、包容力のある都市の追究はまだ緒についたばかりである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

全泓奎、アジアの包摂都市論研究に向けて、共生社会研究、査読無、9 巻、2015、1 6

キーナー・ヨハネス、コルナトウスキ・ヒェラルド、インナーシティにおける外国人向けゲストハウス事業の実態と地域へのインパクト、人文地理、査読有、67(5)巻、2015、395 411

中山徹、山田理絵子、台湾におけるいわゆる『経済型』遊民に対する就労支援、地域福祉研究センター年報、査読無、4 巻、2015、25 32

中山徹、山田理絵子、台湾における社会救助法と遊民支援策、社会問題研究、査読無、63 巻、2014、53 68

福原宏幸、社会的排除/包摂と「社会的なものの(ル・ソシアル)」、Culture energy and life、査読無、106 巻、2014、34 37

水内俊雄、白波瀬達也、ヨハネス・キーナー、コルナトウスキ・ヒェラルド、大阪における生活困窮者/ホームレス者をめぐるハウジング調査の系譜とその展開、貧困研究、査読無、13 巻、2014、74 87

Wong T. & Kornatowski G., Domination and Contestation in the Urban Politics of Shenzhen, The Planning Review, 査読有、50(4)巻、2014、6 15

水内俊雄、熊谷美香、大阪の困窮状況改善に西成特区構想が貢献する可能性、市政研究、査読無、135 巻、2014、34 44

水内俊雄、生活困窮者支援の新たな体系と脱ホームレス支援との協働、兵庫県人権啓発協会研究紀要、査読無、15 巻、2014、41 70

水内俊雄、脱ホームレス支援からみたアジアハウジングの最先端、建築雑誌、査読無、128 巻、2013、11 13

全泓奎、多文化コミュニティワークによるコミュニティの再興、東アジア居住学会論文集、査読無、8 巻、2013、85 88

全泓奎、韓国ソウル市におけるスラム居住地の再編と包摂的な居住再生の課題、建築雑誌、査読無、128 巻、2013、36 37

(学会発表)(計 16 件)

Geerhardt, Kornatowski, Expanding Homeless Assistance into a Social Justice Effort: An Approach from the 'Struggle in the Place of Residence, the 4th East Asian Inclusive City Network Workshop, 2015.1.8, Hong Kong (中国)

Toshio Mizuuchi, Issues of Micro-scale Density in Osaka's Inner-city Rental Housing Market for Low Income Assistance Recipients, The Workshop on High-density development and Social Justice in Hong Kong, 2015.12.5, Hong Kong Baptist Univ. 香港 (中国)

水内俊雄、コルナトウスキ・ヒェラルド、キーナー・ヨハネス、大阪市西成区における中高年単身世帯の住居と取り巻く不動産市場の変容、人文地理学会、2015.11.14、大阪大学(大阪府・豊中市)

Toshio Mizuuchi, The Current Situation and Issues of Housing Support to Needy Persons under the New Safety Net-Related Laws, East Asian International Conference: Solving the Housing Problems of the Poor in East Asian Cities, 2015.5.15, Seoul City Hall, Seoul (韓国)

Geerhardt, Kornatowski, Singapore as a Failed "Arrival City" and its Consequence: On the Spatiality and Social Conditions of Injured South Asian Foreign Workers, International Conference of Critical Geography, 2015.7.26 ~ 2015.7.30, Palestine, Ramallah (パレスチナ)

コルナトウスキ・ヒェラルド、シンガポールにおけるホームレス支援: 国主導型住宅体制下における法的課題と新パートナーシップ、第 5 回 EA-ICN(東アジア包摂都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ)、2015.9.24、台北市(台湾)

水内俊雄、コルナトウスキ・ヒェラルド、キーナー・ヨハネス、日本の生活保護制度の改定が及ぼす狭小住宅市場における居住福祉ビジョンへの影響、第 5 回 EA-ICN、2015.9.24、台北市(台湾)

中山徹、日本のホームレス・生活困窮者に対する政策の転換 生活保護、「ホームレス自立支援法」、「生活困窮者自立支援法」の位置と役割、第 5 回 EA-ICN、2015.9.24、台北市(台湾)

Geerhardt, Kornatowski, Living at Limit: The Current Struggle for Living Space in a Context of Fragmented Homeless Policy and Ongoing Urban Renewal in Hong Kong, 7th

EARCAG (East Asian Regional Conference in Alternative Geography), 2014.7.25, Osaka City University(大阪府・大阪市)
Toshio Mizuuchi, The Outcomes of Japan's Homeless Assistance Policy in the Last Decade and its Future Prospects, 7th EARCAG, 2014.7.25, Osaka City University (大阪府・大阪市)
Yamada Rieko, Nakayama Tohru, A Comparative Study of Complementary Policies on Poverty: Homeless Support Measures in Taiwan and Japan, 7th EARCAG, 2014.7.25, Osaka City University (大阪府・大阪市)
Geerhardt, Kornatowski, Singapore as a Failed "Arrival City": On the Spatiality and Social Conditions of Injured South Asian Foreign Workers, 24th International Network for Urban Research and Action Conference, 2014.6.27, ベオグラード(セルビア)
Geerhardt, Kornatowski, Toshio Mizuuchi, Social Mixing without 'Stealth Gentrification'? A Case Study on Guesthouses for Long-term International Visitors in Nishinari, Osaka, The Workshop on Social Justice and the City, 2013.12.4, Hong Kong Baptist University, 香港(中国)
水内俊雄, 日本のホームレス支援と生活困窮者への地域生活支援策の動向, National Homelessness Service Conference, 2013.11.22, National Taiwan University, 台北市(台湾)
コルナトウスキ・ヒェラルド, シンガポールにおける使い切った労働 『アライバル・シティ』概念からみた負傷した移民労働者の社会的問題, 人文地理学会, 2013.11.10, 大阪市立大学(大阪府・大阪市)
コルナトウスキ・ヒェラルド, キーナー・ヨハネス, ジェントリフィケーション批判的研究に関する議論 大阪市西成区北部における外国人ゲストハウス宿泊者をまきこんだ地域再生の可能性, 人文地理学会, 2013.11.10, 大阪市立大学(大阪府・大阪市)

(図書) (計 21 件)

水内俊雄, 福本拓編, 法律文化社, 都市の包容力 セーフティネットシティを構想する, 2017, 90
水内俊雄, キーナー・ヨハネス, 法律文化社, 「跳ねるベッド」から「安楽ベッド」への変身 大阪市西成区, 水内俊雄・福本拓編, 都市の包容力, 2017, 1-11
コルナトウスキ・ヒェラルド, 法律文化社, 外国人労働者の就労・生活空間の光と影 シンガポール・リトルインディア, 水内俊雄・福本拓編, 都市の包容力, 2017, 33-42
阿部昌樹, 水曜社, 全泓奎, 水内俊雄, 岡野浩編, 包摂都市のレジリエンス 理念モデルと実践モデルの構築, 2017, 250
水内俊雄, 水曜社, 包容力ある都市論を構想する 東アジア包摂都市論のさらなる転

回を通じて, 阿部昌樹ほか編, 包摂都市のレジリエンス, 2017, 44-57
全泓奎, 水曜社, 東アジア都市における生産主義福祉モデルと居住福祉の実践, 阿部昌樹ほか編, 包摂都市のレジリエンス, 2017, 171-184
五石敬路, 水曜社, 東アジアにおける貧困と社会政策, 阿部昌樹ほか編, 包摂都市のレジリエンス, 2017, 185-194
穂坂光彦, 水曜社, 包摂型アジア都市への「中間的社会空間」試論, 阿部昌樹ほか編, 包摂都市のレジリエンス, 2017, 195-206
コルナトウスキ・ヒェラルド, 水曜社, 都市内格差社会における社会的包摂のチャレンジ 理論的背景を中心に, 阿部昌樹ほか編, 包摂都市のレジリエンス, 2017, 232-243
全泓奎編, 法律文化社, 包摂都市を構想する 東アジアにおける実践, 2016, 202
中山徹, 法律文化社, 台湾における公的扶助と補完的貧困政策 台北市を事例に, 全泓奎編, 包摂都市を構想する, 2016, 33-43
コルナトウスキ・ヒェラルド, 法律文化社, 香港のインナーシティにおける住宅困窮状態の類型と特徴, 全泓奎編, 包摂都市を構想する, 2016, 107-120
水内俊雄, 岩波書店, 山田実 運動の聖地・寄せ場釜ヶ崎から, 岩波講座 ひとつの精神史, 第8巻 バブル崩壊 1990年代, 2016, 343-370
水内俊雄, 大阪公立大学共同出版会, 新しい磁場生成のまちづくり現場を鳥瞰する, 都市大阪の磁場, 2015, 3-13
水内俊雄, コルナトウスキ・ヒェラルド, ヨハネス・キーナー編, 大阪公立大学共同出版会, 都市大阪の磁場 変貌するまちの今の読み解く, 2015, 83
コルナトウスキ・ヒェラルド, ヨハネス・キーナー, 全ウンフィ, 大阪公立大学共同出版会, 地域が競い合う時代における都市・大阪 新たな磁場生成の現場とその背景, 水内俊雄ほか編, 都市大阪の磁場, 2015, 14-28
全泓奎, 法律文化社, 包摂社会: 社会的排除アプローチとその実践, 2015, 193
コルナトウスキ・ヒェラルド, 大阪公立大学共同出版会, 「香港における都市問題の現状と居住福祉の役割に関する一考察 マルクス経済学のアプローチからみて」『居住福祉を切り拓く居住支援の実践』, 2015, 50-55
中山徹, 加美嘉史, 東山書房, 社会保障, 2015, 215
水内俊雄, 岩波書店, 大阪における都市空間の生産と場所の政治化 「公都」・「民都」の政治地理, 岩波講座 現代 第5巻, 歴史のゆらぎと再編, 2015, 203-238
②1 Toshio Mizuuchi, Geerhardt Kornatowski (eds.), URP, 7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography "The Right to Inhabit: the Asian Challenges", 2014, 247

(その他)

ホームページ等

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/mizuuchi/japanese/achievements.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水内 俊雄 (MIZUUCHI Toshio)

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授

研究者番号: 6018180

(2) 研究分担者

全 泓奎 (JEON Hong Gyu)

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授

研究者番号: 00434613

コルナトウスキ ヒェラルド (KORNATOWSKI Geerhardt)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特任助教

研究者番号: 00614835

中山 徹 (NAKAYAMA Toru)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号: 40237467

(3) 連携研究者

松村 嘉久 (MATSUMURA Yoshihisa)

阪南大学・国際観光学部・教授

研究者番号: 80351675

佐藤 由美 (SATO Yumi)

奈良県立大学・地域創造学部・准教授

研究者番号: 70445047

垣田 裕介 (KAKITA Yusuke)

大分大学・福祉社会科学部・准教授

研究者番号: 20381030

福原 宏幸 (FUKUHARA Hiroyuki)

大阪市立大学・経済学研究科・教授

研究者番号: 20202286

白波瀬 達也 (SHIRAHASE Tatsuya)

関西学院大学・社会学部・准教授

研究者番号: 40612924

五石 敬路 (GOISHI Norimichi)

大阪市立大学・創造都市研究科・准教授

研究者番号: 30559810

鈴木 亘 (SUZUKI Wataru)

学習院大学・経済学部・教授

研究者番号: 80324854

稲田 七海 (INADA Nanami)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特別研究員

研究者番号: 70514834

本岡 拓哉 (MOTOOKA Takuya)

立正大学・地球環境科学部・地理学科・講師

研究者番号: 60514867

平野 隆之 (HIRANO Takayuki)

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号: 70183580

穂坂 光彦 (HOSAKA Mitsuhiko)

日本福祉大学・福祉経営学部・特任教授

研究者番号: 10278319

(4) 研究協力者

タン ウィンシン (TANG Wing Shing)

ファン リーリン (HUAN Liling)

チェン インファン (CHEN Yingfang)

キム スヒョン (KIM Soohyun)

ケステルロート クリスチャン (KESTELOOT

Christian)

オステルリンク スティン (OOSTERLYNCK

Stijn)

ドゥベルトウイユ ジェフリー (DEVERTEIUL

Geoffrey)

ラコ マイク (RACO Mike)

マー マシュー (MARR Matthew)

シン ヒョンバン (SHIN Hyunbang)